

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3011174号

(45) 発行日 平成7年(1995)5月16日

(24) 登録日 平成7年(1995)3月8日

(51) Int. Cl.<sup>8</sup>

識別記号

庁内整理番号

F 1

技術表示箇所

G 0 2 C 9/04

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願平6-15226

(22) 出願日 平成6年(1994)11月15日

(73) 実用新案権者 594035585

株式会社ボストンクラブ

福井県鯖江市三六町1丁目4-31-2

(72) 考案者 小松原 一身

福井県鯖江市三六町1丁目4-31-2 株

式会社ボストンクラブ内

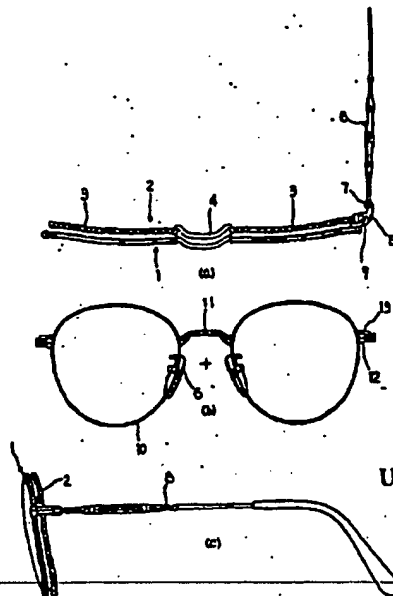
(74) 代理人 弁理士 平崎 彦治

(54) 【考案の名称】 前掛け式メガネフレーム

(57) 【要約】

【目的】 フロントフレームに前掛けフレームを着脱自在に取着する前掛け式メガネであって、前掛けフレームがガタ付くことなく安定して取着され、前掛けフレームを取り外した場合には一般のメガネと何ら異なることのない前掛け式メガネフレームの提供。

【構成】 フロントフレーム2の両サイドにロウ付けしたヨロイ5、5には係止孔8と係止溝17を連続して上下方向に貫通し、前掛けフレーム1の両サイドには脚13、13を固定し、脚脚13は先端にボール14を有す垂直片15と水平片16を有し、垂直片15を係止溝17の底にバネ力を付勢して係止するとともに、水平片16は上面18に当接する。



CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0003

BEST AVAILABLE COPY

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 フロントフレームに前掛けフレームを着脱自在に取着する前掛け式メガネフレームにおいて、上記フロントフレームの両サイドにロウ付けしたヨロイには係止孔と係止溝を上下方向に貫通し、一方の前掛けフレームの両サイドには脚を固定し、該脚は係止孔よりも小さく係止溝幅よりも大きなボール等を先端に形成した垂直片と水平片を有し、垂直片を係止溝の底にバネ力を付勢して係止するとともに水平片を上面に当接したことを特徴とする前掛け式メガネフレーム。

【請求項2】 フロントフレームに前掛けフレームを着脱自在に取着する前掛け式メガネフレームにおいて、上記フロントフレームの両サイドにロウ付けしたヨロイには取付けブロックを固定し、該取付けブロックに係止孔と係止溝を上下方向に貫通し、一方の前掛けフレームの両サイドには脚を固定し、該脚は係止孔よりも小さく係止溝幅よりも大きなボール等を先端に形成した垂直片と水平片を有し、垂直片を係止溝の底にバネ力を付勢して係止するとともに水平片を上面に当接したことを特徴とする前掛け式メガネフレーム。

【請求項3】 リムを用いなくて両レンズを連結部材にて連結し、レンズ外側にはヨロイをビス止めして成るメガネのフロント部に前掛けフレームを着脱自在に取着する前掛け式メガネフレームにおいて、上記ヨロイには係止孔と係止溝を上下方向に貫通し、一方の前掛けフレームの両サイドには脚を固定し、該脚は係止孔よりも小さく係止溝幅よりも大きなボール等を先端に形成した垂直片と水平片を有し、垂直片を係止溝の底にバネ力を付勢して係止するとともに水平片を上面に当接したことを特徴とする前掛け式メガネフレーム。

【請求項4】 リムを用いなくて両レンズを連結部材にて連結し、レンズ外側にはヨロイをビス止めして成るメガネのフロント部に前掛けフレームを着脱自在に取着する前掛け式メガネフレームにおいて、上記ヨロイには取付けブロックを固定し、該取付けブロックに係止孔と係止溝を上下方向に貫通し、一方の前掛けフレームの両サイドには脚を固定し、該脚は係止孔よりも小さく係止溝\*

\*幅よりも大きなボール等を先端に形成した垂直片と水平片を有し、垂直片を係止溝の底にバネ力を付勢して係止するとともに水平片を上面に当接したことを特徴とする前掛け式メガネフレーム。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の前掛け式メガネを示す実施例。

【図2】 前掛けフレームに取着している脚と該脚が係止するヨロイ。

【図3】 ヨロイの係止溝に脚が係止した状態。

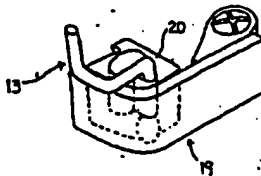
10 【図4】 本考案の前掛け式メガネを示す他の実施例。

【図5】 本考案の前掛け式メガネを示す更に別の実施例。

【符号の説明】

- |    |          |
|----|----------|
| 1  | 前掛けフレーム  |
| 2  | フロントフレーム |
| 3  | リム       |
| 4  | 連結部材     |
| 5  | ヨロイ      |
| 6  | 鼻当てパット   |
| 7  | 紐手       |
| 8  | フル       |
| 9  | 係止孔      |
| 10 | リム       |
| 11 | 連結部材     |
| 12 | リムロック    |
| 13 | 脚        |
| 14 | ボール      |
| 15 | 垂直片      |
| 16 | 水平片      |
| 17 | 係止溝      |
| 18 | 上面       |
| 19 | ヨロイ      |
| 20 | 取付けブロック  |
| 21 | フロントフレーム |
| 22 | ハーフリム    |
| 23 | レンズ      |
| 24 | レンズ      |

【図3】



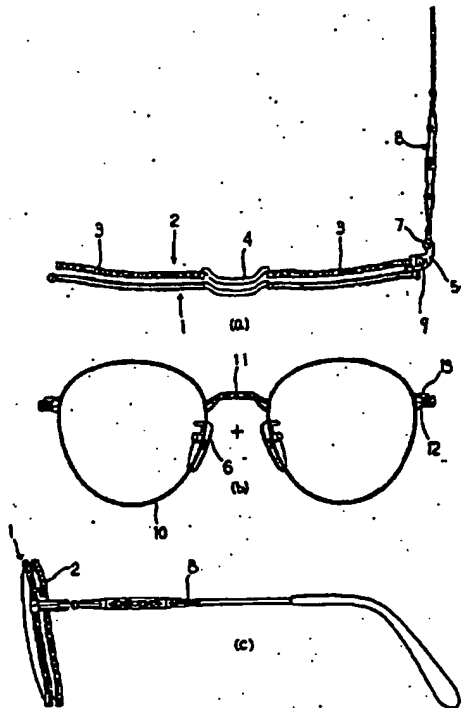
CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0004

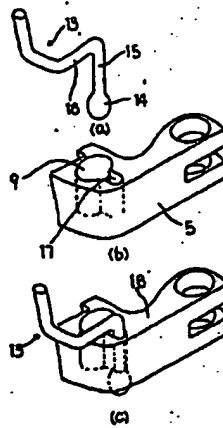
(3)

英登3011174

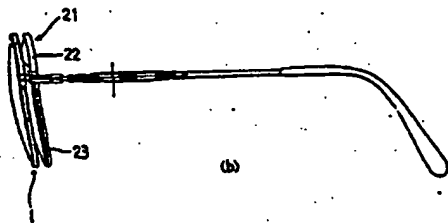
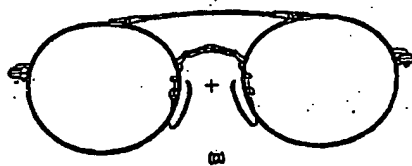
【圖1】



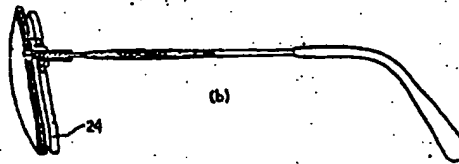
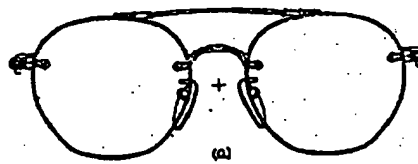
【圖2】



【圖4】



【圖5】



CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0005

## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は前掛けフレームを取着したメガネフレームに関するものである。

【0002】

## 【従来の技術】

従来においても、メガネのフロントフレームに、さらに前掛けフレームを取着したメガネは多用されている。これは周知の通り、近眼の人がサングラスを必要とする場合や、老眼であるにもかかわらず近眼でもあるといったケースは多く、このような場合に近眼用のメガネにサングラスの前掛けフレームを取着したり、老眼用のメガネに前掛けフレームには近眼用レンズを入れて使用するという具合である。

【0003】

ところで、従来型式の前掛けフレームを備えたメガネフレームには幾つかの問題がある。その1つは取着構造が複雑であるためコスト高になるとともに、嵌合状態があまくなってガタ付きを生じ、前掛けフレームが安定しないといった点である。又前掛けフレームを取着するメガネフレームには、レンズを止着するリムの上端に掛け渡されるワタリが必要であり、上記前掛けフレームは該ワタリに取着されている。従って、近年多用されているところのリムを持たないメガネではこの前掛けフレームを備えることが出来ない。

【0004】

メガネフレームはその機能性の他にデザインのウェイトが大きく、前掛けフレームを取着するためのワタリがデザイン上邪魔になることがあり、この種のメガネデザインが該ワタリによって大きく制約されることになる。一方、従来の前掛けフレームを取着したメガネは、該フロントフレーム部が重くなってしまい、長時間着用していれば疲れを感じ、又フロント側を支持する鼻当てパットの押圧によって鼻の両脇が痛くなる。さらに、前掛けフレームを取着することによって、フロント部は上記重量の増大に加えて厚さが大きくなり、デザイン的にも好ましくない。

CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0006

【0005】

【本考案が解決しようとする課題】

このように、従来型式の前掛けフレームは上記のごとき問題を有している。本考案が解決しようとする課題はこれら問題点であって、着脱が容易で軽いために、長時間着用しても疲れることなく、又リムを持たないメガネであっても適用出来る前掛けフレームを取着したメガネフレームを提供する。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本考案に係る前掛け式メガネフレームは必要に応じて前掛けフレームを取着することが出来る構造としている。そこで、該前掛けフレームはその両サイドに脚を有し、脚先端にはボールを形成している。一方のメガネフレームのフロント部にはヨロイに係止孔を形成し、該係止孔に連続して係止溝を有している。上記脚は前掛けフレイの側端から屈曲して延び、撓み変形することが出来る材質から成っている。そして、該脚はフロント部のヨロイに形成した係止溝に係止して止着される。係止孔は脚先端のボールが挿通する大きさと成っているが、係止溝は細幅であって一旦係止するならば離脱することは出来ない。ここでボールは必ずしも球体に限らず、係止溝を通過することが出来ないものであればよい。以下、本考案に係る実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

【0007】

【実施例】

図1は本考案の前掛け式メガネフレームを示す実施例である。同図の1は前掛けフレーム、2はフロントフレームを示し、この前掛けフレーム1はメガネのフロントフレーム2に止着され、しかも着脱自在となっている。上記メガネのフロントフレーム2はレンズを嵌めているリム3、3が連結部材4にて連結され、又リム3、3の外側にはヨロイ5、5がロウ付けされている。そして、上記連結部材4の下方であってフロントフレーム2の中央には鼻当てパット6、6が取着されている。

【0008】

ヨロイ5には継手7を介してツル8が折り畳み出来るように連結し、外観的に

CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0007

は従来のメガネフレームと何ら異なるところはない。本考案のメガネフレームの特徴は上記ヨロイ5に係止孔9を形成している点である。この係止孔9はヨロイ5の上面と下面を貫通した孔であって、メガネフレームの外観を損なう要素は全くない。本考案の前掛けフレーム1は該係止孔9を利用してフロントフレーム2に重なり合って取着される。

#### 【0009】

ところで、前掛けフレーム1は上記フロントフレーム2とその形状を同じくし、レンズ又はサングラスを嵌めるリム10、10が連結部材11によって連結されている。リング状を成すリム10の外側には、該リムロック12が設けられていて、リムロック12のネジを緩めることで該リム10を開きレンズを嵌め込むことが出来る。従って、前掛けフレーム1はヨロイを用いておらず、その代わりリムの外側には脚がロウ付けされている。この脚13は上記フロントフレーム2のヨロイ5に形成している係止孔9に嵌入して該前掛けフレーム1を取着する。

#### 【0010】

図2の(a)は脚13、(b)はヨロイ5を、更に(c)はヨロイ5に脚13が係止した状態を示している。同図に示すように、上記脚13は先端にボール14を形成し、該ボール14から上方へ延びる垂直片15と、垂直片15の上端に直角に屈曲した水平片16を有している。該水平片16から更に延びている部分は前掛けフレームのリム10にロウ付けされる。

#### 【0011】

そして、ヨロイ5には係止孔9が上下方向に貫通し、該係止孔9に連続して係止溝17が設けられている。該係止孔9は脚先端に形成したボール14よりも大きく、係止溝17の幅はボールよりも小さくなっている。図2(c)は該ヨロイ5の係止溝17に脚13が係止した状態であり、脚13はバネ性があるため変形することが出来、ボール14を係止孔9に位置合わせして挿入する。そして該ボール14がヨロイ5の裏側に出たところで脚13のバネが作用して垂直片15は係止溝17に嵌入する。

#### 【0012】

脚13の水平片16はヨロイ5の上面18に載って脚を支持し、又ボール14

CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0008

は係止溝17に係止して離脱することは出来なくなる。そして垂直片15は脚のバネ力にて係止溝17の底に圧接し、該脚13並びに前掛けフレーム1を安定して支えることが出来る。逆に、前掛けフレーム1を取り外しする場合には該脚13を再び撓ませて垂直片15を係止溝17から離脱させ、ボール14に係止孔9から抜き取る。

#### 【0013】

図3はヨロイに脚に係止した場合の他の実施例である。上記脚13の形態は前記実施例で示した場合と同じであるが、ヨロイ19の形状は異なる。前記実施例のヨロイ5はヨロイ本体に係止孔9及び係止溝17を形成しているが、この実施例のヨロイ19には取付けブロック20がロウ付けされ、該取付けブロック20に上記係止孔9並びに係止溝17が形成されている。取付けブロック20は切削加工することも出来、又は塑性加工やキャスティング加工で製作する場合もある。従って、このように取付けブロック20を別部品として加工したものをヨロイにロウ付けするだけで前掛けフレーム1を取着することが出来る為、一般のメガネフレームであっても必要に応じて前掛け式メガネフレームとすることが出来る。

#### 【0014】

図4は本考案の前掛け式メガネフレームを示す他の実施例である。この実施例のメガネのフロントフレーム21はハーフリム22を有し、レンズ23は水糸によって保持されている。そして同じくヨロイに形成した係止溝に脚に係止して前掛けフレーム1が取着される。該脚とヨロイに形成した係止孔並びに係止溝との関係は前記図2、図3に示した場合と同じである。

#### 【0015】

図5に示す前掛け式メガネフレームも本考案の実施例であり、この場合のメガネのフロントフレームはリム及びハーフリムを持たず、左右のレンズ24、24は連結部材によって連結され、レンズ24、24の外側にはヨロイがビス止めされて構成したメガネである。該ヨロイの止着形態は任意であるが、ヨロイには前記実施例の場合と同じく係止孔並びに係止溝が形成されていて、上記脚は該係止溝に係止して前掛けフレームを取着する。以上述べたように、本考案の前掛け式

CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0009

メガネフレームはメガネのフロントフレームのヨロイに係止溝を形成し、この係止溝に前掛けフレームの両サイドに設けた脚に係止出来るようにしたものであり、次のような効果を得ることが出来る。

【0016】

【考案の効果】

本考案の前掛け式メガネは前掛けフレームの両サイドに設けた脚をメガネのフロントフレームのヨロイに形成した係止溝に係止するだけで取着することが出来る。従って、前掛けフレームの着脱操作は簡単であり、又取着した前掛けフレームは脚の水平片がヨロイ上面に当接するとともに垂直片は係止溝の底にバネ力を付勢して係止し、更に垂直片下端にはボールが形成されている為に、フロントフレームから外れることなく、又ガタ付くことなく安定した取着が出来る。

【0017】

そして、該脚に係止する係止孔並びに係止溝はヨロイの上下方向に貫通して形成される為に、前掛けフレームを取り外した状態のメガネは一般のメガネと何ら異なることはない。又、前掛けフレームの脚に係止する為に係止孔並びに係止溝をヨロイ本体でなく、別部品にて形成した取付けブロックをヨロイに固定することにより、一般のメガネであっても該取付けブロックの取着によって前掛け式メガネフレームとすることが出来る。

---

CONFIDENTIAL  
UNDER PROTECTIVE  
ORDER

PT P 0010

---



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**